

令和4年(2022年)9月19日に、東海地方に 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを行った事例

【概要】

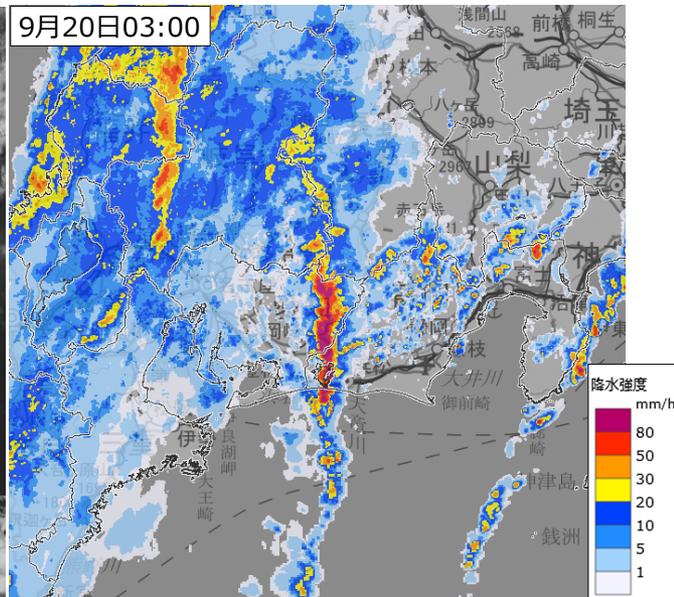
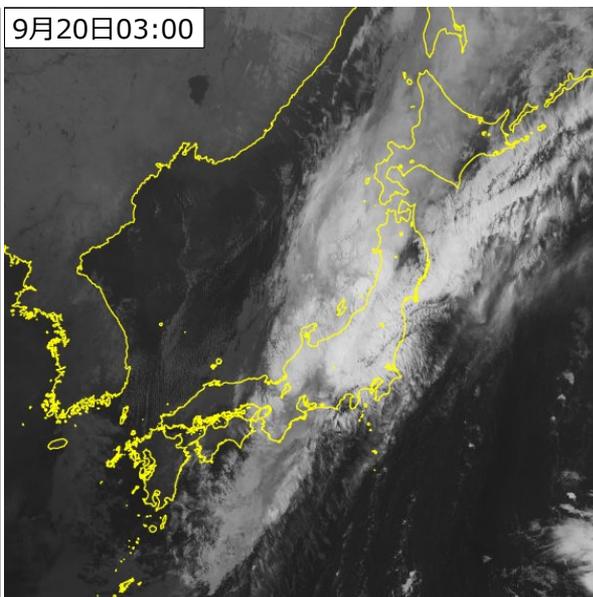
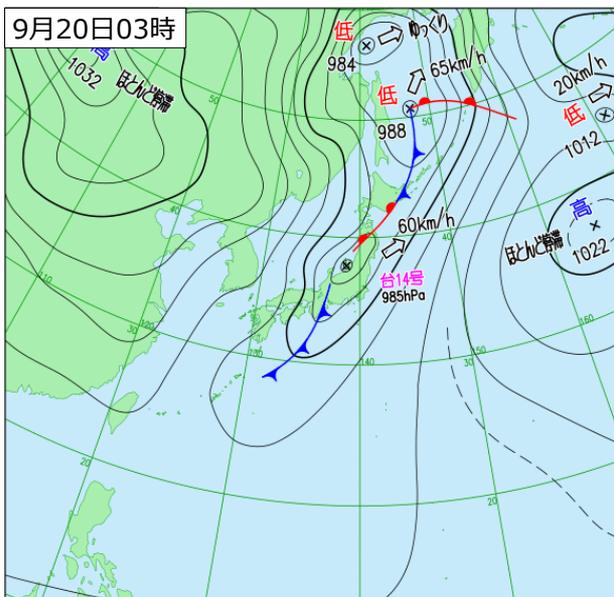
- 19日の気象情報にて、19日夜から20日午前中の東海地方に対して、半日程度前からの呼びかけを実施した。
- 線状降水帯は発生しなかった。

令和4年9月 気象庁大気海洋部

気象の概況

■ 概要

- 台風第14号の発達した雨雲や、周辺の暖かく湿った空気の流れ込みの影響で、全国各地で9月17日から20日にかけて大雨となった。
- 東海地方では、9月19日夜から20日の早朝にかけて断続的に激しい雨が降り、多い所で3時間に約100ミリの雨が降った。

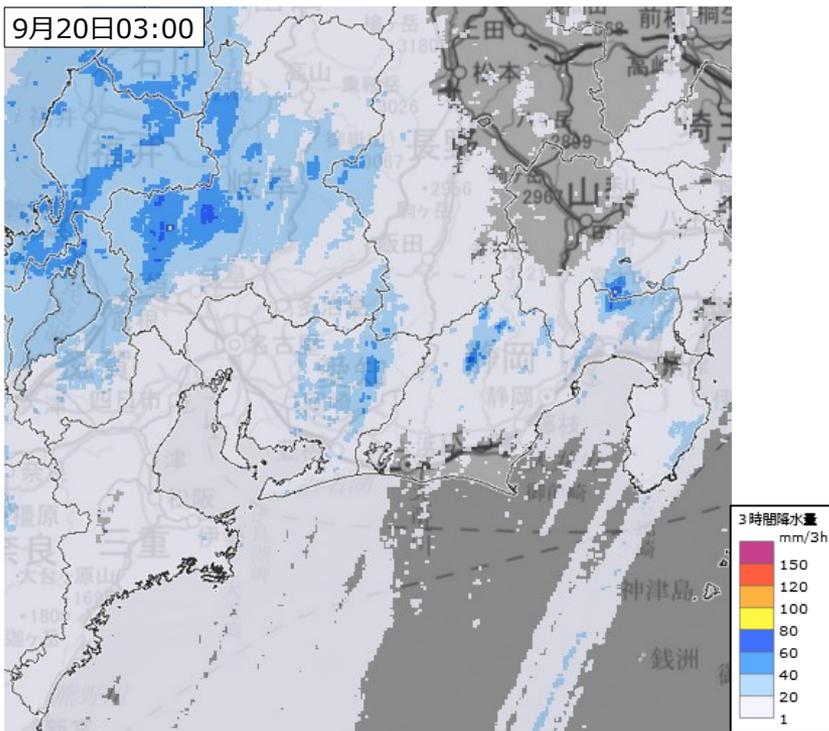


9月20日未明に東海地方で3時間に約100ミリの雨が降った際の気象状況 (左:天気図、中央:気象衛星画像、右:気象レーダー)

線状降水帯の予測及び発生状況

- 9月19日の気象情報において、19日夜から20日の午前中にかけての東海地方に、線状降水帯が発生する可能性がある旨を発表した。これまでの経緯を踏まえて予想した気象状況から、「顕著な大雨に関する気象情報」を発表する条件に達する雨量となる可能性がある程度高いと判断し、線状降水帯の予測情報の発表に至った。
- 線状降水帯は発生しなかった。

○ 3時間降水量



○ 線状降水帯の予測に対する発生状況

● 東海地方

線状降水帯の発生が見込まれる半日程度前の段階で、予測情報を発表していた。

実際には線状降水帯は発生しなかったが、19日夜から20日の早朝にかけて断続的に激しい雨が降り、多い所で3時間降水量が約100ミリ※に達する雨を観測した。

※ 気象レーダー等による解析雨量

顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキル（洪水警報の危険度分布）において警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

本資料について

- 本資料は、[線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ](#)を実施した事例、および線状降水帯が発生※した事例の速報的な検証資料です。
※ ここで、「線状降水帯が発生した」とは、前ページの「顕著な大雨に関する気象情報の発表基準」を満たした場合をいいます。
- 本検証資料は「大雨事例等における防災気象情報の精度検証と発表基準の改善」のページからアクセスできます。
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jirei/index.html>
- 関連する情報は、「線状降水帯に関する各種情報」のページをご覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを、地方予報区単位で実施していることから、検証も地方予報区単位で実施し、同じ地方予報区でも時間がある程度あいた場合等は異なる事例として取り扱っています。ただし、ここに掲載する検証資料は、地方予報区をまたいで線状降水帯が発生した場合等に1つにまとめていることがあります。

現在の技術では、線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、呼びかけを実施しても必ずしも線状降水帯が発生するわけではありませんが、線状降水帯が発生しなくても大雨となる可能性は高いため、この情報が発表されたときには心構えを一段高めてください。

また、線状降水帯による大雨の呼びかけがなくても、線状降水帯が発生したり、災害をもたらすような大雨となったりすることがあるため、自治体が発令する避難情報や、大雨警報やキキクル等の段階的に発表される防災気象情報とあわせてご活用ください。